

3 長薬発第 1070 号
令和 4 年 1 月 14 日

地域薬剤師会長 様
同 薬局部会長 様

長野県薬剤師会
会長 日野 寛明

薬局内で新型コロナウイルス感染症検査の検体採取の立ち合い等を行う際の
衛生管理等のポイントについて

平素、本会の運営に際しまして、種々ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、標記について、日本薬剤師会から別添のとおり通知がありました。

「長野県ワクチン・検査パッケージ定着促進等事業」無料検査実施薬局の登録等、県民が身近な薬局で検査が受けられる体制づくりにつきましては、貴会並びに薬局の皆様に多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

感染拡大時の一般検査事業が開始されている状況の中、同事業に積極的に取り組むことができるよう、日本薬剤師会公衆衛生委員会が、薬局での検査の立ち合い等にあたって行うことが望ましい衛生管理等のポイントを取りまとめました。

つきましては、薬局内の衛生管理等の参考資料の一つとしてご活用いただき、同事業への積極的な取り組みをお願いしたく、貴会（部会）会員にご周知下さいますよう、よろしくお願ひいたします。

なお、薬局の構造等により検査事業の実施に十分な感染対策が叶わない薬局については、医療用抗原定性検査キットの販売を行い、地域の医療機関との連携により、地域の感染拡大防止のための対応を進めていただくよう、併せてお願ひ申し上げます。

[掲載場所]

○薬局内で新型コロナウイルス感染症検査の検体採取の立ち合い等を行う際の衛生管理等のポイント

日本薬剤師会HOME > 日本薬剤師会の活動 > 災害対策・感染症対策 >
新型コロナウイルス感染症に関する情報

<https://www.nichiyaku.or.jp/activities/disaster/virus.html>

一般社団法人 長野県薬剤師会
事務局長 中島 / 保険医療課 桐山
〒390-0802 松本市旭 2-10-15
TEL0263-34-5511 FAX0263-34-0075
E-mail : hoken3@naganokenyaku.or.jp

日薬業発第 380 号
令和 4 年 1 月 14 日

都道府県薬剤師会担当役員 殿

日本薬剤師会
副会長 安部 好弘

**薬局内で新型コロナウイルス感染症検査の検体採取の立ち合い等を行う際の
衛生管理等のポイントについて**

平素より、本会会務に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、誰もが簡易かつ迅速に利用できる検査の環境整備（「ワクチン・検査パッケージ等定着促進事業」及び「感染拡大傾向時の一般検査事業」）については、令和 3 年 12 月 27 日付け日薬業発第 362 号他にてご案内しているところです。

B. 1. 1. 529 系統の新たな変異株（オミクロン株）の市中感染が確認される状況にあつて、都道府県知事の要請に基づき、一部地域では感染拡大時の一般検査事業が開始されております。

こうした状況の中、同事業に積極的に取り組むことができるよう、本会公衆衛生委員会では薬局での検査の立ち合い等にあたって行うことが望ましい衛生管理等のポイントを取りまとめました。

つきましては、薬局内の衛生管理等の参考資料の一つとしてご活用いただき、同事業への積極的な取り組みをお願いしたく、貴会会員にご周知下さいますよう、お願いいたします。

なお、構造設備等の理由で同事業に取り組むことができない薬局におかれましても、引き続き、医療用の抗原検査キットの販売など、ご対応いただきますよう、重ねてよろしくお願い申し上げます。

○薬局内で新型コロナウイルス感染症検査の検体採取の立ち合い等を行う際の
衛生管理等のポイント

HOME > 日本薬剤師会の活動 > 災害対策・感染症対策 > 新型コロナウイルス感染症に関する情報

URL : <https://www.nichiyaku.or.jp/activities/disaster/virus.html>

薬局内で新型コロナウイルス感染症検査の検体採取の立ち合い等を行う際の 衛生管理等のポイント

令和4年1月14日
日本薬剤師会作成

新型コロナウイルス感染症対応地方創成臨時交付金における検査促進枠交付金に係る実施要領に基づき、薬局はワクチン・検査パッケージ等定着促進事業、感染拡大傾向時の一般検査事業において、新型コロナウイルスの PCR 検査等の検体採取の立ち合い及び抗原定性検査の結果の確認等を行う事業者として登録できることとなり、地域での医薬品供給を担う薬局は積極的に取り組んでいく必要があります。

一方で、受検者の中には陽性と判定される者も想定されることから、薬局での検査の立ち合い等にあたり、薬局での感染を起ささないためにも衛生管理が重要となります。

つきましては、薬局での感染防止対策を図りながら同事業に基づいて検査の立ち合い等を行う場合のポイントをまとめましたので、自薬局の構造設備等も考慮した上で、薬局での衛生管理等に努めていただければ幸いです。

検査手順

検査の実施に際して、手順を定めている。

採取等の実施場所

検査の実施場所は、患者待合室などから明確に区別されている。

検査受検者の人数に応じ、感染防止のための空間が確保されている。

検査受検者と検査管理者の間に十分な距離を確保するか、距離を保てない場合は透明なシールド等で隔たりを設けている。

検査受検者による検体採取の様子や検査結果を十分に確認できる明るさがある。

パーティション等を設置し、受検者のプライバシーを保護するとともに飛沫拡散防止を図っている。

室内の換気等

法令を遵守した機械換気が設備されている場合は常時活用を行う。また、自然換気を行う場合も2方向での換気が望ましく、保温に気を配りながら常時10～20cmを開放して換気を実施している。

CO₂モニターを設置することが望ましい。

湿度については、一定程度(40%)以上まで加湿することに努めている。

消毒等

検査の立会いを行う薬剤師が開局前に健康チェックを行っている。

検査の立会いを行う薬剤師はマスクや防護服等を装着し、検体採取・検査の立ち合いをしている。

※ N95 マスクや医療用マスク(医療用クラスⅡまたはⅢ)を着用することが望ましいが、薬局で用意することが困難であれば、医療用クラスⅠや一般用の不織布マスクを着用する。また、フェイスシールドや長袖ガウンなどの個人防護具(PPE)は極力着用する。

検体採取・検査前後で、検査受検者の手指消毒を実施している。

検査を行うたびに検査の実施場所(特に飛沫等が付着する可能性がある箇所)の消毒を実施している。

廃棄物の処理等

使用済みスワブ等の検査によって生じた廃棄物については、原則、受検者自らが袋に入れる。その後、作業者が二重にごみ袋に入れて縛り、密閉して廃棄を行っている。

廃棄に際して、作業者はマスクや手袋を着用して作業し、作業後は石鹸等で手指を洗浄している。

検査によって生じた廃棄物について、自治体の指示に沿って適切に廃棄を行っている。

検体採取の立ち合い後の対応

【PCR 検査のために検体を検査機関に送付する場合】

検体は、検査機関が定めた方法に従い保管し、検査機関に送付している。

検査機関から受検者に対して検査結果通知書を発行させるとともに、薬局でも結果通知を受けている。

【受検者が行う抗原検査結果の読み取りを行う場合】

陽性判定時は、連携等をしている医療機関を紹介している。

陰性判定時は、感染している可能性を否定できないことを含め、今後もマスクの着用、手指消毒の実施など必要なことを指導している。

陰性判定時でも、咳や発熱などの風邪様症状がある場合は、医療機関を紹介している。